

2019年12月期 第2四半期決算説明会 質疑応答の要約

2019年8月6日（火）開催した、ライブにおける決算説明会において、出席者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMO インターネット 代表取締役会長兼社長・グループ代表の熊谷より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●仮想通貨マイニング事業について

【Q1】 DCの移設計画の遅れについて、前回の決算説明会では「19.Q4で移設完了、1,200PH/sに向けて最大投資額10億」という話があったが、ロードマップに変化はあるか？

【A1】 移設は一旦終了しており、安価な電源自体の確保はできたものの、大きな電力供給を受けるための許認可、電源工事などの敷設に想定以上に時間がかかっており、きちんと稼働できていない状況です。リードタイムに対する見通しが我々、パートナー企業ともに甘かったと言わざるを得ません。本日時点で、今後の明確な見通しについてお伝えできる状態ではないのですが、引き続き調整を継続していく予定です。

●ネット広告メディア事業について

【Q2】 広告・メディア事業の業績の戻りが弱い。毎四半期同じような状況が続いているように見えるが、AkaNeの進捗などはどうなっているか？

【A2】 広告ビジネスそれ自体はなくなる事ではあるものの、グループ内では1,000人規模のパートナーが従事しながら弱く、業績的にもV字回復できていないという現状があり、経営課題として重要性の高い案件と考えています。この点、本質的な問題はGAFAに刀の柄を握られていることであり、対策として『AkaNe』など自社商材を拡充するという方針に変わりはありません。

アドネットワーク広告『AkaNe』については、広告掲載基準の適正化により回復基調にあり、ネット広告の健全化と売上拡大の両立を目指してまいります。また、広告代理で大手顧客の獲得が進んでおり、今後はこうしたお客さまに自社アドテク商材をご利用いただけるよう働きかけを行なってまいります。

●ネットインフラ事業について

【Q3】 アクセス事業の高成長が続いている要因は？

【A3】 アクセス事業の主な商材はWiMAXとドコモ光であり、特に成長を牽引しているのがドコモ光になります。回線速度の速さと価格優位性をお客さまにご評価いただいております。このNo.1プロダクトを、オンライン・オフライン通じて販売しております。

●海外事業について

【Q4】 海外事業が黒字化という話があったが？

GMO INTERNET

- 【A4】 海外事業の中でも、非英語圏のアジアに対し、「Z.com」ブランドで展開しているインフラ事業において単月黒字の見通しとなっている、というものです。一部ショット売上もあり継続的な黒字計上というところまでは来ておりませんが、国内と同じくストック型の商材が中心であり、右肩上がりでの成長を確信しております。

以上